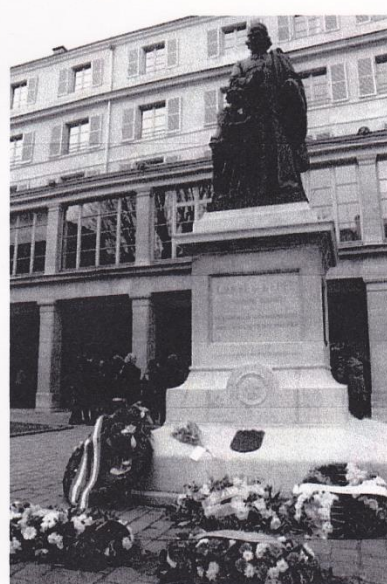


長野県松本ろう学校同窓会 記念講演会



日 時：平成 25 年 3 月 23 日（土）午後 1 時半～

場 所：長野県松本市総合社会福祉センター

「記念講演会」

演 題『ド・レペ神父のよもやま話』

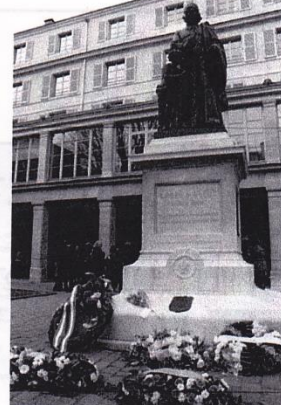
講 師 ^{さくら}桜 ^い井 ^{つよし}強 氏（前日本聾史学会会長）



講師：桜井 強氏



ド・レペ神父の銅像（国立パリ聾学校にて）



- ド・レペ神父の存在との出会い
- ド・レペ神父についての研究キッカケ
- ド・レペ神父の生い立ち（簡潔的な解説）
- ド・レペ神父にまつわる話

■フランスの神父で、世界で最初にパリ聾学校を開き、手話を使った教育をはじめたド・レペ（1712 ～ 1789）の生涯と先生の行った聾歴史を紹介するお話です。

【講師プロフィール】

大阪万博の年（1970年）。愛知県西尾市生まれ、愛知県一宮市育ち、3歳の時、高熱により失聴、愛知県立一宮聾学校幼稚部、小・中・高校は普通校（インテグレーション&デフファミリー出身）

◎活動歴：日本聾史学会（元事務局長・前会長、現在会計監査）

ド・レペ神父のよもやま話

愛知県在住・桜井強

- 3歳の時、高熱による失聴
- 愛知県立一宮聾学校幼稚部
- 小・中・高校は普通校(インテグレーション出身)



愛知県立一宮聾学校の校章

桜井強の生い立ち

- 大阪万博の年に生まれた(1970)
- 愛知県西尾市生まれ愛知県一宮市育ち



聾歴史に出会いキッカケは？

- 今から約20年位前に自主的な聾若者グループで大きなイベントの聾歴史部門があって、東海地区の埋もれた聾歴史を掘り起こそうというテーマでした。
- それは、高木茂生(しげお)のテーマに出会う。
- 研究調査の方法が分からず……。試行錯誤……。



父親
聾者
岐阜聾学校
一宮聾学校卒
一宮市役所奉職
定年後、孫と遊ぶ



母親
聾者
岡崎聾学校卒
主婦

ド・レペ神父との出会い

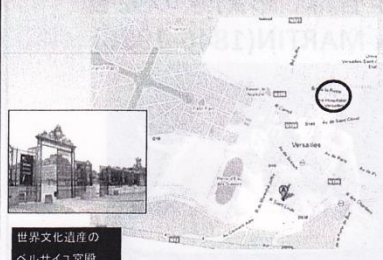
2003年7月、第5回国際聾史学会フランス大会に参加した時初めて知った。



5年後(2008年)
第11回日本聾史学会兵庫大会
研究レポート発表



ベルサイユ宮殿周辺で誕生



世界文化遺産の
ベルサイユ宮殿

世界最初のろう学校創設者
ド・レベ



聾啞者と出会うまでの経過

- 18才 パリ大学法学部入学
- 19才 聖職者になる
- 21才 パリ大学法学士号取得
パリ高等法院弁護士になる
- 25才 フージュ主任司祭任命
以降、様々な……教会に関する転々
- 47才 聾啞双子の姉妹と出会う

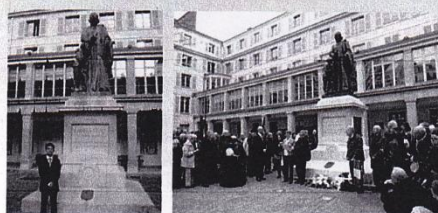


シャルル・ミシェル・ド・レベ
Charles Michel de l'Épée

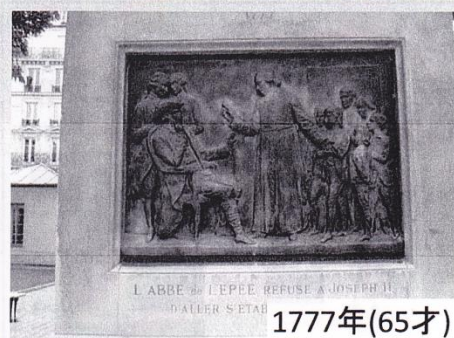
1712年11月24日誕生
1789年12月23日死去
享年 77歳

ヴェルサイユで裕福な家庭に生まれました。神学を学び、やがて神父になったが、宗教儀式の解釈上の違いから、教会から追放された。
彼が聾教育を始めたのは、ちうの双子の姉妹との出会いだった。双子を教えようとしていた人が亡くなったことがわかり、自ら教えることを申し出た。それからのち、1750年頃パリ国立聾啞学校を自費で設立し、死ぬまで財政的に学校の運営を請うことになる。

パリ国立聾学校の中庭



ドレペ神父の銅像
制作者は、彫刻家の聾者
Felix MARTIN(1846-1916)



1777年(65才)

ドレペ神父銅像のプレートのレリーフ(原型)



1788年(76才)



1760年(48才)

パリ聾啞学校(発祥地)






1777年5月7日
オーストリア皇帝ヨーゼフ二世
訪問した様子のレリーフ

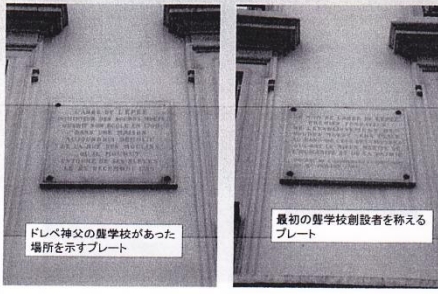
2時間半程度、授業の様子を見て
熱心に耳を傾けた。

聾学校の設立の必要性を訴えた。

2年後、オーストリアのウィーンに
聾学校を設立し、手話による授業
を取り入れた。




妹：マリー・アントワネット王妃(ルイ16世の妻)



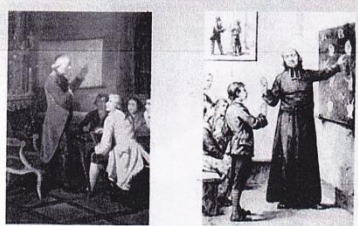
ドレペ神父の聾学校があった
場所を示すプレート

最初の聾学校創設者を称える
プレート



ルイ16世とマリーアントワネット王妃の訪問授業参観

ドレペ神父のろう教育方法



「目は耳の代わりになり得る」
「身振り言語こそ、耳の聞こえない彼らにとって自然な言葉である」

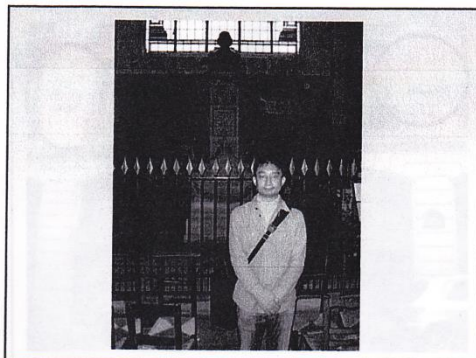
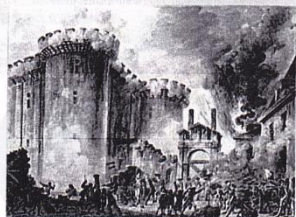


1788年、厳しい冬の様子
暖炉のある教室で授業して
いるドレペ神父に賛同し、
自分の部屋(居間)を暖める
よう泣きながら壁生徒達です。

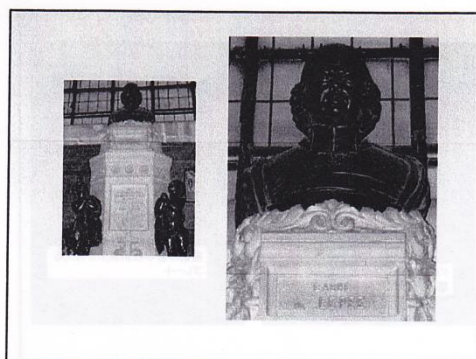
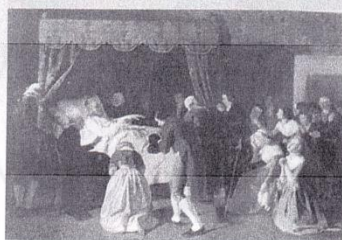
伝説になった美しいエピソード
がある。

【解説】
1788年のヨーロッパは、猛烈な寒気に襲われ、パリのセーヌ川が凍結した
という記録が残っている。農作物が大幅な被害を受けた。
これにより生じた貧困と飢饉は、翌年(1789年)にフランス革命の大きな原因に
なった。

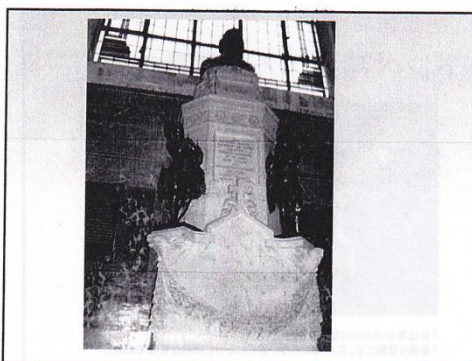
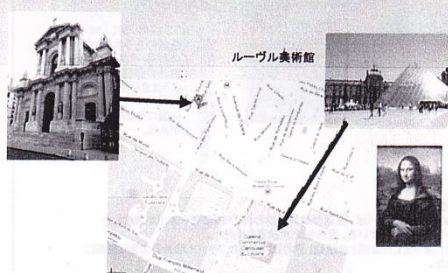
フランス革命勃発
バスティーユ襲撃
1789年7月14日

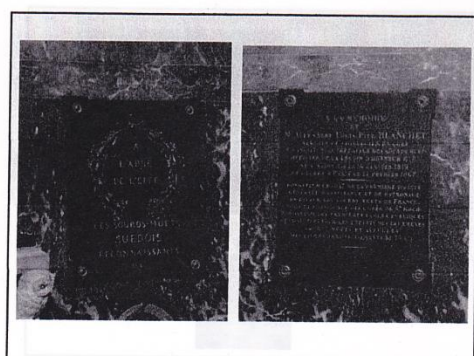
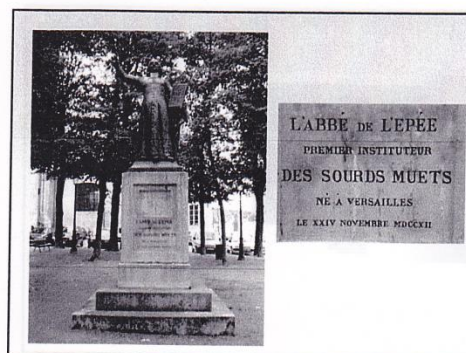
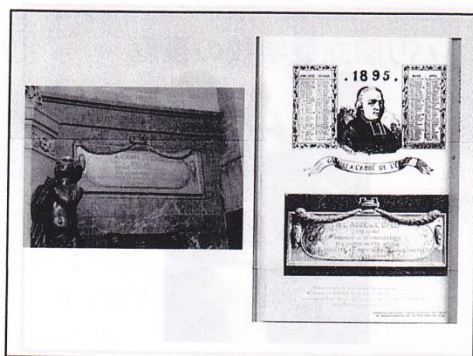
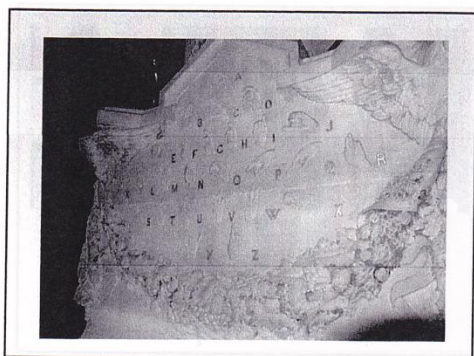


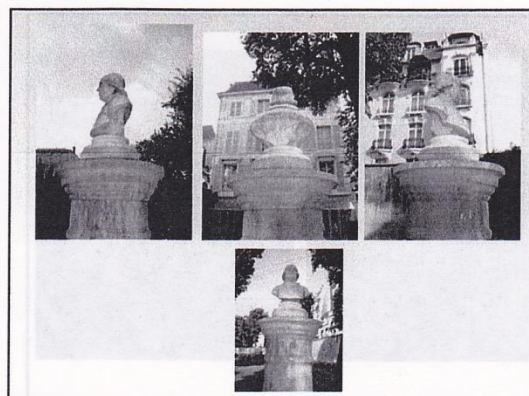
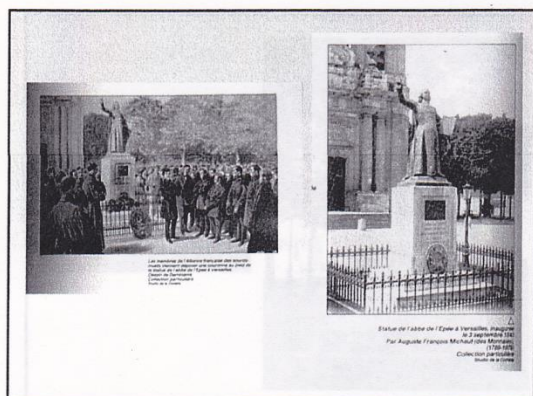
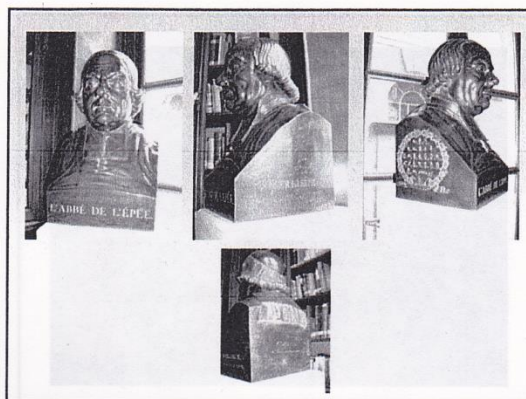
ドレペ神父の死去
1789年12月23日 78才

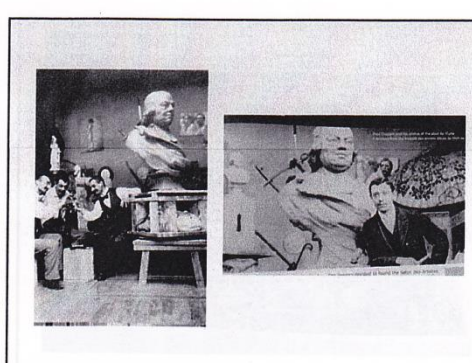
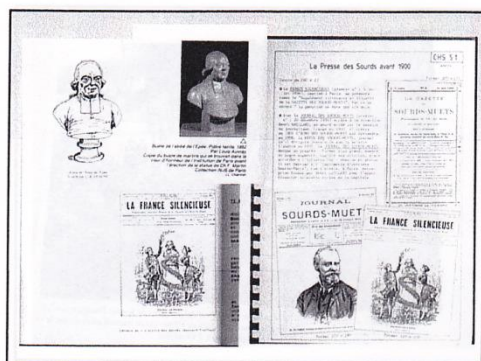


パリのサンロック教会









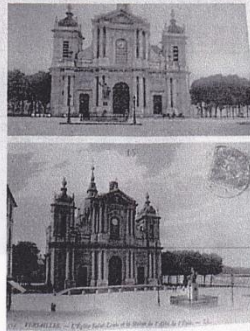
ドレペ神父生誕200年記念
1912年



Le dimanche 4 août 1912, les différentes délégations d'Associations de Sourds Français et Étrangers se sont rassemblées devant la statue de l'abbé de l'Épée qui se trouvait alors devant la cathédrale de Saint-Louis à Versailles.



Plaque déposée par la délégation de Sourds des Pays-Bas



La Cathédrale Saint-Louis de Versailles de l'abbé de l'Épée



Carte Souvenir Éditée à l'occasion du 100^e Centenaire de la naissance de l'abbé de l'Épée

ドレペ神父生誕300年記念
2012年11月24日(土)





最後まで見てくれて
ありがとうございました。



信濃叢史だより(29)

松本ろう学校・校舎跡記念碑



① 蟻ヶ崎



② 白板



③ 旭町



④ 美須々

「長野県松本ろう学校」の歴史を振り返ると、蟻ヶ崎（昭和 3～11 年）から白板（昭和 11～26 年）、旭町（昭和 26～28 年）、美須々（昭和 28～54 年）、寿（昭和 54～現在）へと校舎が移っていった。

平成 5 年 10 月に、松本ろう学校開校 65 周年記念事業として、『校舎跡記念碑』を、①蟻ヶ崎、②白板、③旭町、④美須々の 4 ケ所に建立、平成 5 年 11 月 13 日、白板校舎跡において記念碑除幕式が行われた。

※記念碑とは、記念のために文字を刻んで建てる石碑である。①「松本女子求道会附属ろう哑教育所跡地／私立松本ろう哑学院跡地・蟻ヶ崎校舎」②「私立松本ろう哑学校跡地・白板校舎」③「県立松本ろう学校跡地・旭町校舎」④「長野県松本ろう学校跡地・美須々校舎」。

校舎跡記念碑を見にお越しください。

（松本ろう学校同窓会役員・日本聾史学会役員：内田博幸）

松本ろう学校同窓会 桜井強氏の記念講演



去る 3 月 23 日（土）午後 1 時半より松本市総合社会福祉センターにおいて松本ろう学校同窓会の企画で「桜井強氏の記念講演会」が行われた。

前日本聾史学会会長・愛知県在住の桜井氏を講師にお迎えして、演題『ド・レベ神父の

よもやま話』でご講演いただいた。

パワーポイントを用い、貴重な写真を沢山見せていただき、素晴らしいお話だった。1999 年第 2 回日本聾史学会 in 東京の参加の時、桜井氏と初めて出会い、その後日本聾史学会の役員活動を共にする。内田の『全国聾学校モニュメント（記念）巡り』の発表に感動し、それがきっかけで、日本や外国の聾史探訪・研究調査として活動されている。

桜井氏は、フランス・国立パリ聾学校（世界で最初の聾学校）へ 2 度も出かけ、ド・レベ神父（1712～1789）の生涯と先生のモニュメント（生家、お墓、立像、胸像、メダルなどの記念）の研究調査をした。その報告を聞かせていただき、大変勉強になった。

（松本ろう学校同窓会事務局長：内田博幸）